

主 題：すべての罪に優る神の恵み

聖書箇所：ローマ人への手紙 5章15－21節

主なる神の恵みのすばらしさ、神の恵みがどんなにすばらしいのかということパウロはローマにいる人々に伝えようとしてしました。彼が選んだ方法は、類似を通して、比較を通して行なうというものでした。ですから、私たちは二人の人を見て、二つの行ないを見て、二つの結果を見ました。これらがそれぞれに比較されているのです。

1. アダムとイエス・キリストの比較 12節、18節

二人の人、アダムとイエスについてすでに見て来ましたが、アダムは最初のアダムと言われました。彼は救われていない人々を生み出した者です。イエスは最後のアダムと呼ばれました。彼は救われた人々を生み出したと聖書が教えています。

2. 二つの行ないとそれがもたらした結果 12－21節

1) アダムとイエス・キリストの行ない

そして、この二人の二つの行ないについても見ようとして、前回は、アダムの行ないだけを見ました。彼の行ないを一言で言うなら、罪を犯すということです。人類最初の罪でした。15－19節を見ると、そこには、「違反」、「罪」、「不従順」ということばが並んでいます。これがアダムが行なった罪です。主なる神ご自身から直接いただいた戒め、命令を、彼は全く無視し逆らったのです。そして、主からいただいたリーダーとしての大切な務めを果たさなかった。アダムは主なる神に対して不従順であり、神に対して違反を犯したのです。そのことを前回見たわけです。

では、それに代わって、今度はイエス・キリストの行ないはどうだったのでしょうか？18－19節を見てください。「**こういうわけで、ちょうど一つの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、一つの義の行為によってすべての人が義と認められて、いのちを与えられるのです。:19 すなわち、ちょうどひとりの人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、ひとりの従順によって多くの人が義人とされるのです。**」、そこにはアダムの違反に対してイエスの「義」が記されています。「**一つの義の行為**」と書かれています。19節には、アダムの不従順に対して「**ひとりの従順**」とあります。この二つがイエスが行なった行ないであると言います。「義の行為」であり「従順」であると。

2) アダムとイエス・キリストの行ないの結果

そして、次に、それぞれの行ないがもたらした結果を見るのですが、前回、私たちはアダムの行ないの結果を見ました。それは罪であり死でした。同じように、イエスの行ないの結果を見ましょう。15節には「**多くの人が死んだ**」とあり、それと比較して「**イエス・キリストの恵みによる賜物**」とあります。これがイエス・キリストの行ないによる結果です。16節には「**罪に定められた**」と記されているのがアダムの行ないの結果ですが、「**義と認められる**」とあるのがイエスの行ないの結果です。17節にはアダムが行なった行ないの結果は「**死**」、イエスの行ないの結果は「**いのち**」であるとあります。18節にあるアダムの行ないの結果は「**罪に定められた**」こと、イエス・キリストの行ないの結果は「**義と認められて**」、「**いのちを与えられる**」です。19節「**不従順によって多くの人が罪人とされた**」ことがアダムの行ないの結果であり、イエスの行ないの結果は「**義人とされる**」ことと言います。20節「**罪の増し加わる**」がアダムの結果であり、「**恵みも満ちあふれ**」がイエスの結果です。そして、21節「**罪が死によって支配した**」と、これがアダムがもたらした結果で、イエスが行ないによってもたらした結果は「**永遠のいのちを得させる**」ことであると言います。これらがイエスが行なった行ないの結果です。ですから、アダムは罪を犯すことによって人類に罪、死、さばき、のろいをもたらしましたが、イエス・キリストの行ないは人類に、「恵み」「義」、「いのち」、「救い」をもたらしたとパウロは教えるのです。

3. アダムとイエス・キリストの類似点

そして、14節をもう一度見ると「**アダムはきたるべき方のひな型です。**」とありました。二人には類似点があるということです。それは、それぞれの行動が全人類に影響をもたらしたということ、この点において二人は似通っているのです。ですから、この点では確かにアダムはイエス・キリストのひな型と行うことができるのです。

しかし、パウロはその後、この二人には大きな相違点があると言います。

4. アダムとイエス・キリストの相違点

みことばを見ると、このようにアダムが犯した罪によって人類にもたらされたものと、イエスが行なったことによって人類にもたらされたもの、この二つは余りにも違い過ぎることに私たちは気づきます。

15節には「恵みには違反のばあいとは違う点があります。」とあり、16節にも「賜物には、罪を犯したひとりによるばあいと違った点があります。」とあります。ですから、パウロは明らかにこの二人には相違点があると言わんとするのはです。私たちが今日見ようとしているこの15-17節には、特にその相違点を三つ挙げています。イエスとアダムはどのように違うのか、そのことを今から見て行きます。

1) 違反と恵み 15節

15節を見てください。「ただし、恵みには違反のばあいとは違う点があります。もしひとりの違反によって多くの人が死んだとすれば、それにもまして、神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に満ちあふれるのです。」、パウロは「ひとりの違反によって多くの人が死んだ」と教えます。

(1) アダムの違反

「ひとりの人、アダムの違反によって多くの人が死んだ」と言っています。繰り返しになりますが、この「違反」とは「真理から外れること、脱線すること、正しい道から外れて行く」ことです。アダムのその違反によって、「死ぬ」という大変な悲惨を全人類にもたらしたのです。「全人類」と言ったのは、ここに「多くの人が死んだ」とある「多くの人」というのは全人類を指しているからです。そのことについては後で説明します。パウロはアダムが罪を犯すことによって、人類に大変な不幸、のろいをもたらしたと言います。パウロは12節から、アダムによってもたらされた二つの不幸、のろいを繰り返し記しています。一つは15節や17節に出て来る「死」です。これは罪の結果であると前回見ました。もう一つは16節にある「罪」です。ですから、この15節から21節を見ると、この「死」、「罪」という悪が繰り返して出て来ます。アダムは自らの違反によって、大変な災い、のろいを全人類にもたらしたのです。

(2) イエス・キリストの恵み

それに反して、今度はイエスが為したことをパウロはこのように言います。「それにもまして、神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に満ちあふれるのです。」と。「恵みによる賜物」ということばは非常に大切です。「恵み」とは「受けるにふさわしくない神さまのご好意」と定義する人たちがいます。ジョン・カルバンは「これは価なしの愛である」とも言っています。少なくとも私たちが分かっていることは、神のあわれみ、祝福をいただく資格の全くない者、さばかれてしかるべき人間に対して、神は一方的に好意を示してくださった、すばらしい祝福を与えてくださったということです。全く私たちが受けるにふさわしくない神の豊かなあわれみ、豊かな愛、神の「恵み」と言います。そして、この「賜物」ということばは「無償の贈り物」という意味です。「イエス・キリストの恵みによる賜物」とは何を指しているのでしょうか？これは「罪の赦し、救い、永遠のいのち」です。なぜそのように言えるのか？皆さんもよくご存じのように、同じローマ書の6：23には「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」とあります。神が一方的に無償の贈り物として私たち信じる者に与えてくださるもの、それは永遠のいのちだと言います。ですから、15節でパウロが言わんとしている「恵みによる賜物」とは「救い、永遠のいのち」のことです。それが「多くの人々に満ちあふれる」と言うのです。では、この「多くの人々」とは先ほど見たように「全人類」なのかというと、実は、そうではありません。

◎多くの人

先ほど少し触れたように、「多くの人」ということばの意味は文脈から判断しなければいけないのです。Iコリント15：22でパウロは今私たちが見ていることとよく似たことをこのように言っています。「すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。」と。「アダムにあってすべての人が死んでいる」というこの「すべて」は、今私たちが見て来たように全人類を指していることは明らかです。アダムから生まれて来た者はみな罪の中にいるからです。ところが「キリストによってすべての人が生かされる」こと、これはすべての罪人が生かされるということではなく、「救われる」ことです。もし、これが全人類なら、聖書は人類すべての人が救われると教えていることとなります。そうではありません。イエス・キリストを信じ受け入れた人たち、そのすべてが救われるということです。違いが分かりますか？イエスを信じないで滅びる人、イエス・キリストの救いを拒み続ける人はいるのです。その人たちを神は救いません。ですから、同じように「すべて」ということばが使われていても、それが全人類を指すのか、ある特定の人々を指すのかは文脈によって私たちは判断しなければいけないのです。ですから、この15節にある「多くの人」というのが何を指しているのかを文脈で判断します。最初の「多くの人」は間違いなく全人類です。後半の「神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に満ちあふれるのです。」、この「多くの人」はイエス・キリストの救いを信じて受け入れた人たちすべてです。イエスによって救われた人すべてです。

イザヤ書の中で、イザヤは今私が見ていることをこのように教えています。53：11「彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、

彼らの咎を彼がになう。」と、救いのことです。救いに関して「多くの人を義とし」と言います。先ほど見たように、すべての罪人が救いにあずかるのではありません。ですから、ここにある「多くの人」とは救いにあずかった人たちです。12節にも「それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、…」とあります。すべての人ではありません。信じて救いにあずかった人たちのことです。

ですから、ローマ5：15に戻って、パウロがここで教えようとしていることは、アダムの一つの罪によって全人類に死が広がって行ったように、今度はひとりの人イエス・キリストを信じるすべての人に、神のすばらしい祝福が満ち溢れて行くということです。この15節を終える前に、皆さんに注意して見ていただきたいことは、この中で「それにもまして」と比較に用いることばが使われていることです。ですから、パウロはアダムが行なった行為とイエス・キリストが為したみわざを明確に比較しているのです。比較することによって、イエス・キリストが為してくださったそのすばらしい恵みのみわざが、どんなに祝福に富んだものかを教えようとするのです。人間が生まれながらにいた状況と、救いによって入れられた新しい状況とがどれほど違うのかということ、そして、神が罪の中を歩み、神に逆らい続けた私たちをあわれんでくださって、このような祝福の中に招き入れてくださったそのことをしっかり覚えるようにと、この15節でパウロは二つを比較することによって、「恵みのすばらしさ」を読者に悟らせようとするのです。

15節には「恵み」ということばが3回出ています。しかも、後半には「神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵み」とありますが、これはこの「救い」は100%神の恵みのみわざだと言っているのです。「神の恵み」、パウロは、こうしてイエス・キリストを信じて救いにあずかった者たちは、神のあわれみによってどれほどの祝福にあずかったのか、それを忘れてはいけないと言うのです。私たち人間は神からこのようなすばらしいご好意をいただく資格はありません。神が私たちのような罪人を顧みてその罪を赦すこと、救いをもたらすなどというのは私たちにふさわしくありません。しかし、聖書が教えることは、神はそのような私たちにご好意を示されたということです。このような私たちを愛してくださったのです。カルバンが言うように「価なしの愛」です。また、「イエス・キリストの恵み」とパウロは言います。父なる神だけではない、子なるイエス・キリストも同じように私たちにご好意を示し、そのご好意に基づいた働きを為してくださった。そして、そのわざゆえに、信じる私たちをそののろいから、その罪のさばきから、死から救い出してくださったのです。私たちが何かをしたからではありません。神の一方的な恵みによって、私たちはこのすばらしい救いに招き入れられたのです。ですから、聖書を見た時に、みことばが私たちがどのように生きるのかということに重点を置いている理由が分かります。私は救われて天国に行けるようになった、では、好きに生きて行きましょうということが、いかに間違いであり愚かであるかということは、6章からパウロが教えています。私たちはのろいから救い出されただけではありません。今度は創造された目的に沿って生きて行く者として、新しい歩みを始めたのです。神の栄光のために生きて行くという生き方です。神のすばらしさを世に証して行くという生き方です。そして、これはすべて神の恵みによると言うのです。

使徒の働き15章で、エルサレム会議に集まった人たちの中でヤコブはこのように言いました。15：11「**私たちが主イエスの恵みによって救われたことを私たちは信じますが、あの人たちもそうなのです。**」、異邦人が同じように救われているのを見て、ユダヤ人たちは不思議に思いました。そこで、神は異邦人もあわれんで働きを為してくださっているという報告が為されます。そこでヤコブが立ち上がって「私たちユダヤ人も主イエスの恵みによって救われたが、異邦人も同じように主イエスの恵みによって救われた」と言うのです。ジョン・カルバンはこのように言っています。「アダムの墮落が多くの人々に破滅をもたらす効力があるなら、神の恵みは多くの人々を救うことにおいて、より多くの効力を持つ。なぜなら、イエス・キリストはアダムが人々を破滅させたよりもはるかに有力に、人々を救い給うからである」と。「罪の力」と「イエスの力」、彼自身もこの二つの比較をしっかりと見て、その神のみわざに感謝していたのです。一人の罪によって私たちは死ぬ者、のろいの下にある者となりました。しかし、イエス・キリストは私たちをその力から完全に救い出すことが出来るのです。しかも、救い出すだけではなく私たちを生まれ変わらせて新しく歩んで行く者に造り変えくださった。そのわざは神の一方的な愛によるのです。この恵みによって信じるすべての人が救いにあずかると言うのです。アダムがもたらしたその墮落、破滅、その力よりもイエス・キリストの救いの力のはるかに勝っているのです。

皆さんもよく憶えておられるように、パウロは私たちの罪深さについてエペソ人への手紙2章の1節から話した後、3-5節で「**私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。：4**しかし、**あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、：5** 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。」と言っています。また、同じ8節では「**あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことで**

はなく、神からの賜物です。」と言います。贈り物だと言うのです。私たち信仰者がしっかり覚えなければいけないことは、今、こうして楽しんでいるすばらしい救いは、神の一方的な恵みによって与えられたということです。アダムの違反は大変なのろいを、しかし、主イエス・キリストの恵みは信じるすべての人にこのような大きな祝福を与えてくれた、主の恵みはすばらしいとパウロは語るのです。

2) 罪の結果と賜物 16節

二つ目の相違点は16節のみことばを見てください。「また、賜物には、罪を犯したひとりによるばあいと違った点があります。さばきのばあいは、一つの違反のために罪に定められたのですが、恵みのばあいは、多くの違反が義と認められるからです。」、ここでパウロが相違点として上げているのは「罪の結果」と「賜物」です。この二つを比較しています。

(1) アダムの罪の結果

「罪を犯したひとりによるばあい」とパウロは表現していますが、これはアダムのことです。アダムが罪を犯し、その結果がどうなったのか？「罪に定められた」とあります。アダムが罪を犯すことによって、アダム自身も全人類が「罪に定められた」と言うのです。この「罪に定められた」というのは「有罪の判決を受ける」ということです。アダムが罪を犯すことによって、彼自身が永遠のさばきに服するに価する者だと宣言されたし、私たちすべての人間はアダムにあって罪を犯した者であるゆえに、私たちも神から有罪の宣告がなされたのです。それがアダムが罪を犯すことによって彼自身がもたらした結果でした。

(2) イエス・キリストの賜物

それと比較して、イエス・キリストが為されたことはどうでしょう？「恵みのばあいは」とあり、イエスの恵みは「多くの違反が義と認められるから」と記されています。罪によって人々は有罪となってしまったけれど、今度は恵みによって「多くの違反が義と認められる」と言うのです。ここで使われている「多くの違反」とはすべての罪のことです。すべての罪が赦されるということです。「義と認められる」とは「義の内へ招かれる、義をもたらさる」ということで、この文脈から明らかなことは「義認」のことです。私たちがもう何度も学んで来たことです。神が「聖い、義なる者」と宣告してくださることです。皆さん、この16節のみことばからしっかり覚えていただきたいことは、アダムの一つの罪によってすべての人間が有罪とされた。しかし、イエス・キリストの行ないによって信じるすべての人が義と認められる、赦される、救われる。このように二つの行ないの結果が対比されていることです。ここに「一つの違反のために」とあり、そして、「多くの違反が」と書かれています。パウロはこの二つを比較するのです。「一つの違反のために」有罪とされたとは、神はどんな小さな罪でもその罪を憎んでおられるということです。だから、そのアダムの一つの罪が全人類を有罪としたのです。たくさんの罪を犯したから有罪だと宣告されたのではないことをこのみことばは教えているのです。神は完全に聖い正しいお方です。そのことを私たちはここに見るのです。

しかし、同時に、どんなに小さな罪をも憎まれるお方が、主に救いを求めて出て来るすべての罪人のすべての罪を赦してくださるのです。一つの罪を憎まれる神がイエスを信じる者すべての罪を赦してくださると、パウロはそのことを言っているのです。主なる神はあなたがどれほどの罪の犯しているのかを知っておられます。私たちは1回だけ罪を犯したということは決してありません。毎日の生活で何回犯しているでしょう。神はたった一つの罪でも憎まれる方です。しかしその神は、もし私たちが心から罪を悔い改めて、この方の前に救いを求めて出て行くなら、私たちの過去の罪も現在も、そして、これからもそのすべての罪を赦すと言われるのです。驚くべき恵みです。パウロが言わんとしていることは、この主の恵みはただただ驚きでしかないということです。彼はその恵みの大きさ、すばらしさに感動して、そのように記したのです。この聖い正しい神が救いを求める者に救いを与え、すべての罪を完全に赦してくださると。感謝なことです。

クランフィールドという神学者は「一つの悪行はさばきによって報いを受けるべきである。これは全く理解できることである。積み上げられたすべての時代の罪と犯罪が神の無償の賜物によって埋め合わされるべきである。これは奇跡中の奇跡である。これは完全に人間の理解を超えている。」と言っています。罪を犯せばさばかれるということはみな分かることです。みな納得します。ところが、すべての時代の罪と犯罪が神の無償の賜物によって赦される、これは奇跡中の奇跡である、私たちはこのような神の恵みは到底理解できないと言うのです。皆さん、そのように思われませんか？なぜ、神は私のような者をあわれんでくれたのでしょうか？なぜ、このような者を救おうとしてくださったのでしょうか？少しくらい聖ければ、他の人と比べて正しければ、もしかすると、そこに救われる理由があると思うかもしれませんが、しかし、現実に存在するのは罪人のかしらです。どこを見ても汚れに汚れている者です。そのような罪人を神は一方的にあわれみ、このような赦しを備えてくださったのです。私たちにはそのようなことはできません。人の罪を赦すことが私たちにとってどれほど難しいことかよく分かっています。まして、私たち以上に罪を徹底的に憎んでおられる神が、救いを求めて来る者の罪を赦してくださるの

です。だから、パウロは神の恵みはすばらしいと言うのです。神はこうして無償の贈り物を信じる一人ひとりに与えてくださるのです。

3) 死といのち 17節

三つ目の相違点を見ましょう。17節「もしひとりの人の違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりの人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するのです。」、ここでは「死」と「いのち」が対比されています。

(1) アダムによる死

「ひとりの人の違反により」、アダムの違反によって「死が支配するようになった」と、そのことは、14節でもパウロが教えていました。「ところが死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さなかった人々をさえ支配しました。」と。ですから、人類の歴史が始まってからずっと、死はすべての人々を支配し続けて来たのです。人間はこの死に対して何もすることができません。どんなに長生きしたいと願っても、それは叶いません。ロイド・ジョーンズは「死はこの上ない存在である。だれもその支配から逃れることはできない」と言っています。私たちは死に対して何も抵抗することはできません。全く無力です。しかし、必ず、死はやって来るのです。

この17節の最初に「もし」という接続詞が使われています。これはその死の原因、理由をここでもう一度明らかにしているのです。「ひとりの人の違反により」、それが死をもたらした原因だということです。恐らく、アダムは誘惑を受けたときに、この木の実を取って食べたならこのようなことが現実になるなんて考えてもみなかっただしょう。彼が受けた誘惑は「この木の実を取って食べる時、あなたの目が開かれてあなたは神のようになる」というものでした。ところが、現実はそのとは全く相反するものでした。のろわれた者となり、死が約束され、そして、苦しみながら日々を過ごさなければならなくなりました。彼はこれを食べたら必ず死ぬという神の命令を確かに聞いていましたが、まさかこのようなことになるとは思ってもいなかったはずで、後になってからアダムも悔いたかもしれません。しかし、最も悲しむべきことは、神の栄光を現わすために造られた人間が、それとは全く逆の神の栄光を汚す者となってしまったということです。神の偉大さを世に証するために造られた私たち人間は、その神の栄光を辱め汚す者になってしまったのです。

(2) イエス・キリストによるいのち

17節の中ほどに「なおさらのこと」とあります。先に15節で見た「それにもまして」と同じ比較することばが使われています。ここでもまた、パウロはアダムの為したことと、イエスが為されたことを比較しているのです。「ひとりの人の違反」と「恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々」とを対比しているのです。17節の後半に「恵みと義の賜物とを豊かに受けている」とあります。「恵み…を豊かに受けている人々」とは神の溢れるばかりの恵み、祝福をいただいている人々です。「義の賜物とを豊かに受けている人々」とは義認のこと、神が聖い、義なる者と宣言してくださった人々たちです。それならこの「恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々」とはだれのことでしょうか？はっきりしています。救われている人、クリスチャンです。そのクリスチャンが「いのちにあって支配する」と言うのです。何を支配すると言うのでしょうか？もし、この箇所が「ひとりの人イエス・キリストにより、いのち」が「与えられているのです。」と言っているのならよく分かります。私たちイエス・キリストを信じた者は主から永遠のいのちをいただいた者だからです。ヨハネ10：28で「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。」と神は言われました。「彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」と、イエスを信じている者たちは神から永遠のいのちをいただいた者たちです。

では、なぜイエス・キリストだけが永遠のいのちを与えることができるのでしょうか？思い出してください。あのラザロがよみがえった後でイエス・キリストはこのようなことを言われました。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」(ヨハネ11：25)と。イエス・キリストが明らかにされたことは「わたしはいのちだ」ということです。つまり、いのちを与えることのできる存在だということです。すなわち、神だと言っているのです。神だけがすべての生けるものをお造りになった方です。いのちの源です。わたしにはいのちがある、わたしはいのちを与えることができる、だから、わたしは彼らに永遠のいのちを与える、それが可能なのです。イエスはこのようにも言われました。ヨハネ5：39「あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。」と、イエスは聖書を使って「聖書の中に永遠のいのちがある」ということをあなたがたは知っている、そして、この聖書は「わたしについて」、救い主であるわたしについて、まことの神であるわたしについて教えていると言います。そして、40節にはこのように続きます。「それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。」と。いのちを与えることができる唯一のお方、永遠のいのちを与えることができる唯一のお方、そのイエス・キリストのもとにあなたがたはいのちを求めて出て来ないと言うのです。

ですから、17節には「いのちが与えられる」ではなくて、「いのちにあって支配するのです。」と書かれています。しかも、この主語は先ほどから見ているように、「恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々」、つまり、クリスチャンです。「クリスチャンがいのちにあって支配する」と言っているのです。いったい何を支配するとパウロは言うのでしょうか？それは、これまで私たちを支配して来た「死」、「罪」を今度は私たちが支配する者になったということです。それが私たちクリスチャンなのです。ですから、イエス・キリストを信じた私たちにとって「死」は恐ろしくないのです。これまでは「死」を考えるとどうすることもできないから、私たちは恐れしました。死を考えたくない、不安になるから、縁起が悪いからと。でも、イエスを信じた私たちには死の問題は解決したのです。なぜなら、イエス・キリストが死からよみがえって来られたことによって、死に勝利されたことによって、信じる私たちもまた、死に勝利したからです。私たちクリスチャンにとって死は永遠の始まりです。私たちは愛する主にお会いできると約束されています。ですから、これまで私たちを恐怖に陥れていた死に対して、もうその支配は私には及ばない、私は死に勝利した、私は死んでも主とともに永遠を過ごすと言うのです。パウロのことばを思い出します。Iコリント15:55で「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」と言っています。もう私は死に対して勝利したのだという力強い勝利宣言です。クリスチャンにとってもう死は恐ろしい敵ではなくなったのです。

同時に、パウロは罪に対しても勝利したと言います。しかし、私たちの現実の問題は信仰生活の中で罪との葛藤が続いていることです。信仰をもってからも、悲しいことに、私たちは罪から離れることができません。罪を犯したくないのに、毎日の生活の中でいろいろな罪の誘惑に負けることが多々あります。しかし、聖書が私たちに教えていることは「もう、あなたは罪の支配から解放された、だから、あなたは罪に対しても勝利ある生活を送ることができる」ということです。ローマ6:14を見てください。「**というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にあるからです。**」、もうあなたがたは罪の支配から救われたと言うのです。私たちは罪に勝利した者として新しい歩みを始めて行くのです。どうしてそれが可能になるのでしょうか？17節で教えています。「**ひとりの人イエス・キリストにより、**」と。Iコリント15:57には「**しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。**」とあります。これがクリスチャンです。信仰者の皆さん、感謝なことに、イエス・キリストを信じる前は私たちは罪の奴隷でした。罪に対して私たちはどうすることもできなかった、できたことは一つ、罪という主人を喜ばせ続けることでした。神が喜ばれることなど何一つできなかったのです。しかし、私たちはその支配から救い出されたのです。罪の支配に私たちは勝利したのです。罪があなたを支配することはもうない！と言います。同じローマ人への手紙6:4を見てください。「**私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。**」、新しい歩みができるのです。かつて、罪の奴隷であるために、死に支配され死に対してどうすることもできなかった私はもう死んだのです。そして、イエス・キリストがその死から敢然と勝利してよみがえって来られたように、私たちもよみがえって新しい歩みを為す者として今生かされているのです。私たちは初めて神に喜ばれること、神の前に価値あることを実践して行くことができる者へと生まれ変わったのです。私たちは罪赦された者としての新しい歩み、神と和解した者として勝利者としての歩みを為すことができるのです。だから、パウロはそのように生きなさいと教えるのです。この祝福はイエス・キリストによって、罪を悔い改めて主イエスの備えてくださった救いを信じ受け入れるすべての人にもたらされる祝福なのです。「**ひとりの人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するのです。**」と、圧巻ではないですか！

ジョン・ストットはこのようなことを言っています。「かつては死が私たちの王でした。死は私たちの上に支配権を振るい、私たちはその全体主義的暴君の下にある家来、また奴隷だったのです。私たちは今、ひとたび死の支配から救い出された者として、私たち自身が死と神のすべての敵を支配し始めるのです。家来の身分は終わりました。私たちはキリストの王権にあずかる王となったのです。」と。これが神が私たちに備えてくださったすばらしい祝福のひとつです。皆さん、私たちクリスチャンはすごいと思いませんか？私たちが何かしたからではないのです。かつて私たちを支配していたものを、私たちはキリストにあって、キリストとともに、この力によって支配するというのです。そのことを考えると、パウロが言ったように「**死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。**」、もうおまえは私の敵ではない！と言えるのです。罪に対しても同じように言うことができます。もう私は罪から解放された、私は罪の奴隷ではなく神の奴隷となったと。このような祝福を神は私たちにくださった、そのことをパウロは私たちに教えているのです。すばらしい神の恵みです。このすばらしい祝福に私たちがあずかったのは、まさに100%神の恵みだけです。そのことをパウロは私たちに伝えようとしたのです。

パウロはこうして、アダムの行ないによってもたらされた結果と、主イエス・キリストの行ないによってもたらされた結果を比較して、何と、神の恵みはすばらしいのかを教え続けたのです。信仰者の皆さん、この神の恵みは賛美するに価します。感謝するに価します。死ののろいから救い出してくれただけではありません。私たちを生まれ変わらせてくださり、神の栄光を現わす者として生きることを神は赦してくださったのです。もう、死も罪も私たちを支配することはできません。なぜなら、イエス・キリストがそのすべてに勝利されたゆえに、キリストに繋がる信仰者である私たちは、同じように、その敵に勝利したからです。だから、勝利者として今日を生きて行くのです。すばらしい約束、すばらしい祝福を私たちはいただいたのです。パウロはそのことを人々に知ってもらって、このすばらしい恵みの主を称える者になってもらいたいと、それが彼が願ったことです。

信仰者の皆さん、あなたも同じようにこの恵みを心から神に賛美する者になってください。なぜなら、こんなにすばらしい恵みを、こんなにすばらしいみわざを主はあなたのために為してくださったからです。心から主を崇めて感謝して主に従い続けて行きたいものです。